歴史地震
第30号(2015) 211頁

［講演要旨］青森県深浦町椿山の津波堆積層と遺跡
－特に，縄文時代晩期津波堆積層(Ts4)について－

相原淳一*(東北歴史博物館)・駒木野智寛(東北大学大学院・理・後期課程)

§1. はじめに

青森県深浦町椿山における古津波履歴の調査は平川一臣(平川 2013)により行われ，日本海中部地震・津波堆積層の下に，古代製塩土器を含む津波堆積層が1枚確認された.

§2. 調査

相原・駒木野らは 2013 年 10 月・2014 年 4 月に深浦町椿山を現地調査した. 椿山の北側に椿山北遺跡，南側に椿山南遺跡を確認(相原・駒木野 2014a)した. ここでは標高約 6mの海食崖露頭を伴う椿山南遺跡について報告する.

§3. 椿山南遺跡調査成果の概要

1 層は黒褐色砂質土で拳大～人頭大の円礫に富む. ビニール等を含んでおり，1983 年の日本海中部地震に伴う津波堆積層(Ts1)と考えられた.

2 層は黒色砂質土で拳大～人頭大の円礫に富む. ビニール等を含まず，1793 年の鰺ヶ沢(寛政西津軽)地震に伴う津波堆積層(Ts2)と考えられた.

3 層は黒褐色砂の旧表土，4 層は黒色砂礫で，ともに津波堆積層(Ts3)の上部層・下部層である. どちらの層中にも磨滅していない製塩土器の破片が含まれ，立った状態で確認された. 青森県の古代製塩土器は概ね 9 世紀から 10 世紀とされている.

5 層は黒褐色砂礫の旧表土，6 層は暗褐色砂礫で，ともに津波堆積層(Ts4)の上部層・下部層である. どちらの層中にも磨滅していない縄文土器破片・石器が含まれ，いずれも概ね水平の状態で確認された.

7 層は褐色砂礫で層中に遺物は発見されなかった.

なお，津波堆積層試料は粒度・円磨度分析もあわせて行っている(相原・駒木野 2014b).

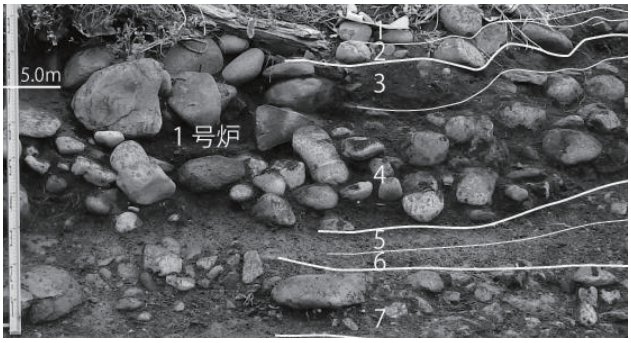

図 1　椿山南遺跡の基本層序

§4.特に 椿山南遺跡 Ts4 について

出土した縄文土器はいずれも磨滅しておらず，接合関係も認められた. よって，いったん水中に堆積していたものが津波によって打ち上げられたものではない. 層理面に沿うような遺物の出土状況は山形県酒田市飛島西海岸遺跡(相原ほか 2013)に類似し，椿山南遺跡でも何らかの遺構が周囲に存在している可能性が高い. Ts4 の年代は，出土土器(大洞 C2 式)の年代 2850～2730calBP(小林 2008)もしくはやや新しい年代と考えられる.

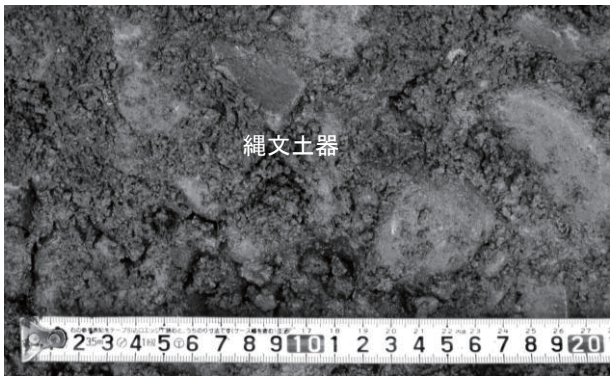

図 2　TS4（6 層上部層中）からの遺物出土状況

図 3　Ts4 出土遺物（1～4：縄文土器，5：石器）

引用文献　平川一臣 2013「日本海東縁の津波堆積物古津波履歴」国交省 2013.2. 13 資料―3
相原淳一ほか 2013「山形県酒田市飛島西海岸製塩遺跡の調査」『山形考古』第 43 号，山形考古学会
相原淳一・駒木野智寛 2014a「日本海東縁における津波履歴と遺跡－青森県深浦町椿山の調査－」『青森県考古学』第 22 号，青森県考古学会
相原淳一・駒木野智寛 2014b「青森県深浦町椿山の津波履歴と考古学的な調査」2014 年度東北地理学会春季学術大会
小林謙一 2008「縄文土器の年代(東日本)」『総覧縄文土器』，UM Promotion